

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和6年度第1回武蔵村山市地域公共交通協議会
開 催 日 時	令和6年9月30日(月)午後3時から午後5時00分まで
開 催 場 所	さくらホール(市民会館)展示室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：藤井会長、遠藤副会長、石塚委員、高坂委員、小林委員、指宿委員、徳山委員、石川委員、清水委員、大谷委員、前田委員、秦野委員、若田委員、関谷委員、吉永委員、富樫委員、高筒委員、佐藤(太)委員、中山委員、佐藤(義)委員、大重委員、榊原委員、安齋委員、今泉委員、指田委員 代理出席者：小関氏(本間委員代理) 欠席者：内野委員、江郷委員、武山委員 事務局：交通企画・モノレール推進課長、交通企画・モノレール推進係長、同係主事
報 告 事 項	武蔵村山市地域公共交通協議会について
議 題	1 会長及び副会長の選任 2 会議の公開に関する取り扱い 3 地域公共交通計画の作成について
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1について 委員の互選により会長に藤井委員、副会長に遠藤委員を選任した。 議題2について 会議は公開とし、会議の公開に関する運営要領については、資料4-2のとおりとし、会議録の作成及び公表については、武蔵村山市附属機関等の会議及び公開に関する指針に基づく取扱いとした。 議題3について 委員の意見等を踏まえ、資料については修正等を行うこととし、アンケート調査票については、修正後、会長の確認をもって決定することとした。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) ◎：会長 ○：委員 ●：事務局	会議開催の前に、市長より委嘱書及び任命書の交付、各委員の紹介が行われた。 報告事項 武蔵村山市地域公共交通協議会について 【事務局説明】 ● 資料2及び資料3に基づき説明 【意見、質疑等】 ○ 今回の条例制定に伴い、今までの武蔵村山市地域公共交通協議設置要綱は廃止されるのか。 ● 新たな協議会では今までの会議の所掌事項も引き継いでおり、要綱は廃止している。 ○ 前回、地域公共交通会議の中で、道路運送法の改正に伴い、武蔵村山市のコミバス、むらタクの運賃の協議については、別途分科会を設け、事業者等が入らない形、カルテルの疑念が持たれない形の協議会設置をしていただいた。今回の条例改正に伴い、そ

の部分の規定がなかったので確認したい。

- 協議会条例の第7条に部会を規定しており、運賃等の協議に関しては部会を開催し協議していきたい。

議題1 会長及び副会長の選任

【事務局説明】

- 会長及び副会長は、「武蔵村山市地域公共交通協議会条例」第5条第1項の規定において、委員の互選により選任するとされているが、いかが取り計らったらよいか。

【意見、質疑等】

- これまでの武蔵村山市の地域公共交通会議の会長を務められた経験と実績、また武蔵村山市だけでなく、全国の自治体の公共交通施策に造詣が深い藤井委員を推薦したい。
副会長については、本会議の前身の地域公共交通会議のときに副会長を務め、市の地域の声、地域の特性を深く理解している遠藤委員を推薦したい。
- 会長に藤井委員、副会長に遠藤委員を推薦する声があった。よろしいか。
- (委員一同) 異議なし。
- 藤井委員に会長を、遠藤委員に副会長を選任する。拍手をもってご承認いただきたい。(拍手)

議題2 会議の公開に関する取り扱い

【事務局説明】

- 会議の公開に関する取扱いについて、資料4-1及び資料4-2に基づき説明

【意見、質疑等】

- 本会議とは別に運賃協議に関わる分科会もあると思うが、会議の公開という点で傍聴される方に旅客運送事業者が傍聴される場合は、カルテルの疑義が生じないようにということで、公開については配慮いただきたい。
- 承知した。
- ◎ 会議に関しては公開とし、運賃協議に関しては非公開とする。
会議の公開に関する運営要領、会議録の作成及び公表については特に意見がなかったので、「(案)」を取り、決定したい。よろしいか。
- (委員一同) 異議なし。
- ◎ 事務局より傍聴に関して報告いただきたい。
- 会長より傍聴希望の方7名の傍聴許可を受けたので、「武蔵村山市地域公共交通協議会の会議の公開に関する運営要領」第5条の規定により報告する。

議題3 地域公共交通計画の作成について

- ◎ 議題3については市長から諮問を受けている。事務局より諮問書の朗読をお願いします。

【事務局が諮問書を朗読】

地域公共交通計画について

【事務局説明】

- 地域公共交通計画について、資料5及び資料6に基づき説明

【意見、質疑等】

- 資料5の8ページの図の右側の「各分野の計画」のところに福祉の「武蔵村山市第五次地域福祉計画」が1つ載っているが、ここには資料6にある環境基本計画なども入ってくるのか。

- 本計画は地域の公共交通に関する計画となるため、観光施策や環境をはじめとした各分野と連携していく計画になると想定している。資料6に記載している計画との連携は、今後精査していく必要があると考えている。

- 本協議会には環境、観光関連の委員がいない。交通と福祉に計画が偏るのではないか。環境、観光のところを盛り込んでいただきたい。観光であれば、市民大学にも結構人が来るが、外からどのように公共交通を使ってきてもらうか。環境であれば、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を作っているが、電気のMMシャトルを使うとか、路線バスも電気バスを使っている。ちょうど今計画を作っているところであるので、そちらと整合性を合わせられるタイミングだと思う。環境ではゼロカーボンシティ宣言やウォークアブル推進都市をやっているなので、盛り込んでいただくなど、各分野との整合性を取る計画としていただきたい。

- 庁内でも関連する部署とは特に強く連携を図り、漏れのないように対応していきたい。

- ◎ 環境で、ゼロカーボンシティなどのキーワードが出てきたが、CO₂の削減は公共交通とリンクしてくる。自動車交通が中心だったものが、モノレールという軌道系に切り替わることで、都市の政策そのものが大きく変わる。事務局としても内部の中で共有できる形で検討いただきたい。

- 資料5の3ページの計画の対象となる交通手段で、「特定目的の送迎システムを対象とするか確認」と書いてあるが、これは必要に応じて活用の検討を図り取り組んでいけばよいと思うが、現状としてはデイサービスの送迎者の稼働時間が午前8時から午前10時と、午後3時から午後5時となっていて、午前10時から午後3時まで空いている車と運転手がいる。その活用も考えられるのではないか。

送迎の運転手は、年金では足りないので1日4時間働いているが、空白の4時間を稼げると収入の足しになるという声もある。

- ◎ 情報提供ということで承る。

- 前日も発言したが、委員も代わられているので当社の現状をお

話したい。

当社は前回のモノレール開通に伴い主要路線のお客様を奪われたことにより、1999年に会社再建をしている。その際、多くの仲間が去った。この会議でしっかり議論させていただきたい。

2021年から事務局と話をしているが、当初の案の中では路線バスとモノレールとMMシャトルを乗り継ぐのがナンバー3駅というお話をいただいているが、ここのターミナルは非常に使い勝手が悪いという話をした中で、3年間が経過している。この会議体でできること、できないことをはっきり決めていきたい。特に1月25日開催の協議会では、このターミナルの使い勝手の悪さを指摘させていただいたところ、藤井会長からも事務局として今後明確にしていくようにというご指示をいただいていると思う。我々としては武蔵村山の地域の足を守るために一緒になってやりたいと思うので、よろしく願います。

◎ 事務局は今のことはお受けするということでよいか。

● はい。

◎ 通常、地域公共交通計画は5年を1つの区切りとして策定する。武蔵村山市は5年2スパンの10年とし、モノレールが実際に地域の中に入ることを想定する中で、段階的に公共交通の仕組みを変えていかなければいけない。

基盤ができて、運用が開始されていくまでの間、基盤ができたとしても、そのときにはモノレールは走っていないので、既存の交通事業者頑張っていたと地域への足は確保できない。再編する仕組みをロードマップとして示さない限り、地域の足が根づく前に撤退されてしまえば、逆にこの地域の公共交通がなくなってしまうことにつながる。どのようにソフトランディングさせるかを10年というスパンの中で、2つに分けて着実に形を見える化していくことが求められる。

土地利用の要件等、なかなか表に出せないこともある。用地のことに関連して、事務局としては開示できない部分が出てくるかもしれないが、どの段階で、どういう目途で、何ができるか、この辺の仕分けをその都度の会議の中で整理し、出させていただきたい。

また、会議は原則公開だが、内容によっては非公開とするなどあっていいと思っている。運用については会議でその都度皆様に諮りながら進めていきたい。

○ 初めて出席するので今までの経緯がわからないが、交通事業者から話があったように、バスの現状をご説明したい。

コロナの影響で、売上が6～7割減少した。その後、お客さんは戻ってきつつあるが、いまだにコロナ前の9割までしか戻っていない。

2024年問題で乗務員不足は相当深刻になっているだけでなく、少子高齢化で乗務員が不足している状況の中、コロナにより3年間は新規採用ができなかった。そのことが今大きく影響を与えている。今まで経験したことがないぐらい人がいない状況である。

モノレールが10年経たずにできる。今、バス会社の体力がな

くなっているのも事実である。早めに情報開示していただきたい。駅の使い勝手に関する意見もあったが、作っても使い勝手が悪くてお客様にご利用いただけない、また、ハブとして機能しないのであれば、バス会社としてもいかがかと思う。せっかくできても生かせないとなれば、仏作って魂入れずになりかねない。

まだ時間があるので、可能な限り随時開示していただき、協議させていただきたい。

◎ MaaSという形で、シームレスな移動環境をどうつなぐか。これは全国各地でいろいろな取り組みが行われているが、新しい軌道ができ、そこに公共交通をつないでいくシームレスな環境を作ることは、武蔵村山だからこそ現実として動き出せるタイミングである。今のご指摘も含めてこの会議の中で議論していきたい。

○ 10年先の公共交通を見据えての協議会ということで、20年前、多摩都市モノレールが開業した当時、当社のバス労働組合は500人の組合員で組織していたが、モノレール開業に伴い約100名の組合員が退職せざるを得なくなった。25年前なので再建という言葉は使わないようにしたいが、100名近い組合員とその家族が犠牲になった過去がある。10年たち、組合員も頑張ってきたが、収入も落ちて労働環境も悪くなり、20年経ったところでまた武蔵村山市内にモノレール延伸ということである。もちろん市民としては悲願であるし、武蔵村山市にとっては良い話であるが、市内で働いている組合員は不安を持っているのも事実である。

組合員には武蔵村山市民も多い。組合員とその家族が生活しやすい、公共交通がしっかりすることにより、市内全域の市民の皆さんのためになればよいという立場で参加したい。

10年ということであるが、途中で話がいろいろ変わってくると思うが、いきなり10年後に公共交通が変わるというのは非常に厳しいことである。しっかり計画してやっていきたい。そういう立場で参加させていただきたい。

◎ 非常に細かい話を伺った。武蔵村山市だけでなく、国の補助を受けるに当たっても交通の確保維持事業は市町が連携という立場になると、武蔵村山単独の話では済まない。周辺の自治体も同じような形で公共交通計画を策定していく中で、同じような悩み、改善策を検討していかなければいけない。事務局には、他市と連携してどういうアプローチを将来取るのかなど自治体間の意思疎通を図る取り組みは丁寧にやっていただきたい。

そういった中で、全体像として交通事業の取組みを今後どういうアプローチで展開するかまた、情報発信できる内容に関しても、会議があるごとに報告してもらえればと思うので検討いただきたい。

○ 補助事業の話が入っているが、必ずしも計画に位置付けたからと言って補助が受けられるわけではない。資料5の7ページに書いてあるとおり、補助要件がある。そこに合っていないと補助は受けられない。今後計画を立てるに当たって注意していただきたい。

計画期間が令和8年から18年までの10年のスパンという

ことで、計画の中には、目標を達成させるためにどういった事業をやったかが必要になってくる。10年に対しどのようなスパンで計画を進めていくのか。なかなか先が読めないのが難しいと思うが、その点にも注意しながら計画を作成していただきたい。

- ◎ 計画策定に当たってということであるが、マスタープランに相当するものを作るということで、将来像を描いた中で、将来あるべきものを達成するために5年前にはどこまで達成していなければならないか。数値目標、アウトプットやアウトカムと言われるが、将来の目標を設定したのに対してどこまで達成できているかということを確認するの5年ピッチで確認するのか、毎年確認していくのか、計画策定の中に具体的に書いていく必要がある。マスタープランと、5年後の具体的な計画を補助要件に沿った形で仕切りをつけることは重要なので配慮いただきたい。
- 資料5の3ページ、計画の対象となる交通手段は、緑、薄い緑、白で色分けされている。タクシーの位置付けについて、タクシーは、鉄道、バスに比べると個人での利用ということで公共交通としては弱いものはあるかもしれないが、路線バスや鉄道の運行が終わった後に利用できるなど、むらタクも運送事業者が運行しているので、その点で連携もあると思う。イベント開催時や、鉄道が止まった際には補完するシステムとしてタクシーは必要な交通手段であることから、特定目的の送迎システム、シェアサイクル等と一緒に色分けになっているところに違和感がある。どのように考えているのか。
- 現時点での案ということ3ページの図のような形で分類してお示ししている。今後様々な協議検討をしていく中で精査していきたい。
- ◎ 基本的にはタクシー事業は公共交通の枠組みであるので、私も濃い緑のほうがよいと思う。事務局でご検討いただきたい。

武蔵村山市の現況について

【事務局説明】

- 武蔵村山市の現況について、資料7に基づき説明

【意見、質疑等】

- 資料7の1ページ、市内外の移動状況で、「立川への移動は手有働」とあるが、鉄道のことでよいか。

また、公共交通の運行状況で、「武蔵村山総合体育館や村山病院」となっているが、似たような施設と混同しないように正確な名称にするなど修正したほうが良い。

20ページ、混雑度・主要渋滞箇所が載っているが、休日、イオンモールに向かうための渋滞箇所として、新青梅街道と多摩大橋通りの本町一丁目の交差点や三本榎から日産通りを南に下ったところにあるトレジャーファクトリーの交差点からイオンに行くには右折レーンがないので渋滞して、バスの定時運行が確保できない状況である。

残堀交差点はジョイフル本田とイオンモールを結ぶ道路となっており、残堀交差点も特に休日は渋滞箇所になっている。

22ページ、市内全体の公共交通の運行状況について、データが7月末時点になっているが、8月19日に時刻改正と減便をしている。1日当たりの運行本数に8月19日以降の時刻改正で変更があるか確認が必要である。

- タイプミスや施設名称については、誤字等がないように確認するとともに混同しないような名称に修正したい。

20ページの混雑度・主要渋滞箇所については、出典に記載のデータをベースにお示ししている。ご指摘いただいた箇所、また図の中で黒のラインでお示ししている旧青梅街道と新青梅街道の中間の部分については、事務局でも現状に近いデータを探したが、本日の段階ではこの資料に留まっている。今後、現状により近い正確なデータを検索し、差し替えていければと考えている。

22ページでは、ご指摘のとおり、バスが8月19日以降、減便していることは承知している。本日の資料は、7月末時点の情報で提示したが、今後事業者にご協力を仰ぎ、資料は可能な限り最新なものでお示ししていきたい。

- 渋滞情報の話があったが、他自治体で広がっているというわけではないが、ETC2.0のデータを活用してということで、全車がETC2.0対応ではないが、プローブデータという、走っている時間帯ごとの速度をデジタルデータとして道路マップ上にプロットできるようなものがある。ETC2.0データを活用し、都市計画道路や各種道路の整備計画とリンクして考えている自治体もある。参考にそういったデータが取れるかどうか、事務局で調べてもらいたい。

- むらタクについて、登録できる地域と乗降場所を増やしていただきたい。伊奈平、残堀、三ツ藤、中原と書いてあるが、対象地域をもう少し大きくしてもらえないか。

- 公共交通計画の中でエリア拡大を検討してほしいという要望である。

- むらタクは令和4年4月1日に、登録可能な方のエリアを拡大したところである。その理由としては、市内循環バスの一部のルートを廃止したことによるものである。現在、登録エリアを拡大してから2年半程度たっているが、もうしばらく推移を見守っていかねばいけないと事務局では考えている。

- 20ページ、混雑度・主要渋滞箇所について、この出典は全国道路・街路交通情勢調査（令和3年度）という記載があるが、これは概ね5年ごとにやっている道路交通センサスを利用していると思う。これは都道しかデータがない。かつ主要渋滞箇所には定義があり、今徐々に減ってきていると思われるが、本市の市道のデータが取れていないと思われる。プローブデータ、ETC2.0は力業であるが、簡易な方法もあるので、使えるものは使いつつ、最新のデータを使えれば良いと思う。協力するのでぜひ活用をお願いしたい。

- ありがたいご意見である。事務局では、資料データ等についてバージョンアップを進めていただきたい。

25ページ、公共交通の不便地域で、路線バスのバス停から300mとあるが、東久留米市では東京都の条例よりバス停から2

00mを交通不便地域と定義していたと記憶している。武蔵村山は適用されていないのか確認いただきたい。もし都条例に基づいてバス停から200mというキーワードで展開する必要があるのであれば、差し替えが必要になるので確認いただきたい。

各種アンケートの実施方針について

【事務局説明】

- 各種アンケートの実施方針について、資料8に基づき説明

【意見、質疑等】

- アンケートは、今後地域公共交通計画を策定するに当たり、市民に広く意見を聞くということの有効だと思っている。しかし、このアンケートを見ると、バス業界、公共交通を取り巻く現状をまず市民全体にお伝えすることが必要ではないか。市民は今のアンケート内容だと理想や要望を書くと思う。公共交通を担う労働力が厳しい状況も踏まえた上で回答いただかないと無理難題な要望だけに終始してしまうのではないか。

現段階で、大型2種免許の保有者は50歳以上が80%を占めている。公共交通計画の10年が経過する頃には60代以上が8割を占めることになり、今後利用者の満足を得られることは非常に難しい。バス業界、公共交通を取り巻く現状について説明した上で、市民にアンケートを回答してもらえるようにしてもらいたい。

特に自由記述部分はバス会社への文句になってしまう。バス停の位置に関することや、路線、本数が少ないという話になってしまう。そうするとバスを運行する上で死活問題になるので、自由記述も建設的な意見をいただくような形でご配慮いただけるとありがたい。

- 現状を記していくべきではないかというご意見は受け取らせていただき再検討したい。
- ◎ アンケートの中にMMシャトルとむらタクの状況で、運転手不足などの表記はされているが、調査をするに当たってということで、市からのメッセージが市民に伝わるよう配慮していただきたい。配布が差し迫っているが、事務局と私の方で確認しながら、進めさせていただきたい。
- 資料8の4ページ、設問3-1の②、「1」の文字位置がずれているので修正願う。

設問4-2のMMシャトル、むらタクの運行についてのところで、先程事務局からも説明があったとおり、MMシャトルに関して利用者1人当たりに対する市の負担額が500円というのは正しい数字ではないので、わかるように記載いただきたい。

一番下の行に「・・高騰等により年々厳しくなっており、今後運賃値上げや・・」とあるが、MMシャトルに関しては令和6年4月1日に運賃改定したばかりである。こういった表記をすると誤った情報になるのではないかと気になる。

- 4ページ、設問3-1の②については修正する。

設問4-2は、シルバーパス利用者はMMシャトル利用者としてカウントしていないので、その旨がわかる表記を加える。運賃の件について、こちらの設問は令和2年度に実施した調査と表現は異なるものの同じ設問でアンケート調査を行っている。意向の推移も見たいということでこのような表記をしている。ご意見を踏まえ、検討したい。

- 4ページ、設問3-3の①、「7、利用対象エリア外であり利用できない」のカッコ中の町目の順番はパンフレットの上段に合わせたほうが見比べやすいのではないかと。

「利用可能なのは」が良いか、「これ以外」としたほうが良いか表現はわからないが、表現を統一したほうが良い。

- ◎ 事務局は調整をお願いします。
- 6ページ、設問4-3の②、モノレール駅までの移動手段に関する設問だが、現状の状況の中で市民がどういう意識で答えるのか。近所に駅ができるから歩いていく、自転車で行けるから使う、この設問は、この結果がどういう役割をするのか。また「バス等」という選択肢は、バスが入るのかはこれからの計画だが、この設問はどのようなものに使えるのか。

- 本市内には5つの駅の整備が予定されている。アンケートは市民全員のご意見をお伺いするわけではないが、将来モノレールの駅ができたときに、駅周辺での公共交通に関する整備すべき乗降環境を一定程度把握できるのではないかとこの設問を設けている。

- ◎ 乗換えというキーワードが出てくる。モノレール単独なのか、バスとしてつなぐのか。今のバスは幹線交通軸として運行しているが、再編といったキーワードになったときに、フィーダーの部分に力を入れていかないといけないのかなど、駅を中心としたバスのネットワークを構築すべきかどうかの検討に使っていきたいということだと思ふ。

- 資料8の4ページ、3、路線バスのサービス満足度の①-7の待ち時間について、バスの間隔の待ち時間なのか、予定どおり来ない待ち時間なのかわかりづらい。定時性の観点から見て時間どおり来ないとか、どういった観点で聞いているのかわかりやすくしたほうが良い。

- ◎ わかりやすくという意見である。その他はいかがか。
アンケートは10月配布の予定であるが、事務局としてご意見をいただく時間をどれぐらい用意できるか。

- 本日アンケートを確認いただき、ご意見等があれば、10月3日までに事務局にご一報いただきたい。

- ◎ 10月3日までをお願いします。わかりやすさ等も含めて私の方でも確認し、調査に入らせていただくということでご理解いただきたい。

ヒアリング調査の実施方針について

【事務局説明】

- ヒアリング調査の実施方針について、資料9に基づき説明

	<p>【意見、質疑等】</p> <p>◎ 内容についてご質問はあるか。よろしいか。 お時間がないところ恐縮だが、事務局から連絡させていただくので、各事業者はヒアリングの協力をよろしくお願いしたい。</p> <p>その他</p> <p>【事務局説明】</p> <p>● 本日の会議録については（案）を作成次第、郵送またはメールで送付するので確認していただきたい。 また、次回の会議は、令和7年1月中旬から下旬を予定しており、アンケート調査の結果などについて報告したいと考えている。日時は確定後連絡する。</p> <p>【意見、質疑等】</p> <p>○ なし</p> <p>◎ これで、第1回武蔵村山市地域公共交通協議会を閉会する。</p>
--	--

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 []	傍聴者： <u>7名</u>
-----------------	---	----------------

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
------------------	---

庶務担当課	都市整備部 交通企画・モノレール推進課（内線：273）
-------	-----------------------------